

三方五湖学習

三方小学校の“ゆりかご水田”

若狭町立三方小学校では、校区の方から借りた田んぼを「ゆりかご水田」と名付け、全校児童により、お米づくりとコイ・フナの稚魚育成に取り組んでいます。

4年目の取組となる今年は、“シュロの産卵床づくり”から取り組みました。フナなどの産卵が始まる4月下旬、5年生がシュロにロープを取り付けた後、シュロを川に設置しました。

田植えの日に卵の付いたシュロを田んぼに投入したところ、今年は約1,250匹のフナと約300匹のコイが、ゆりかご水田で育ちました。

9月8日に刈り取り、はさ掛けされたゆりかご米は、児童たちにより販売される予定です。



(福井新聞朝刊: 平成26年4月29日(火))

自然再生関連会議等開催情報

- ◆湖と田んぼのつながり再生部会
 - ・平成26年9月28日…部会会議
- ◆外来生物等対策部会
 - ・平成26年9月28日…部会会議
- ◆シジミのなぎさ部会
 - ・平成26年9月26日…部会会議

三方五湖の自然とめぐみTOPICS

海山漁協による“田んぼでフナ育成”



海山漁業協同組合では、福井県立大学、ハスプロジェクト推進協議会と協働し、菅湖畔の放棄田においてシュロ採卵による、フナ・コイの

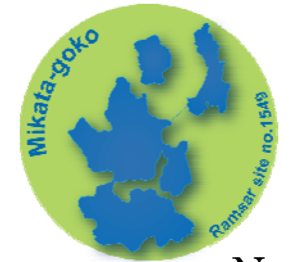


稚魚育成に取り組みました。4～5月に採卵し田んぼにシュロを投入したところ、稚魚は、9月には、3～8cmの大きさに成長していました。

問合せ先

- 福井県安全環境部自然環境課
 - 〒910-8580 福井県福井市大手三丁目17番1号
 - TEL 0776-21-1111(代)
- 美浜町住民環境課
 - 〒919-1192 福井県三方郡美浜町郷市25-25
 - TEL 0770-32-1111(代)
- 若狭町環境安全課
 - [三方庁舎]
 - 〒919-1333 福井県三方上中郡若狭町中央第1号1番地
 - TEL 0770-45-1111(代)
- 若狭町歴史文化課縄文環境室
 - [若狭三方縄文博物館内]
 - 〒919-1331 福井県三方上中郡若狭町鳥浜122-12-1
 - TEL 0770-45-2270(直)

三方五湖 ニュースレター



No. 04
平成26年10月1日発行



日独SATOYAMA研究フォーラム・エクスカージョンの様子(平成26年8月)

目次

- 日独SATOYAMA研究フォーラム開催 1
- 自然再生の取組紹介 2
- 三方五湖学習、自然再生関連会議開催状況、自然再生取組の現場から、三方五湖のなかまたち 3

このニュースレターは「平成26年度生物多様性保全推進交付金(環境省)」を使用しています。

日独SATOYAMA研究フォーラム開催

8月30日から31日にかけて日独SATOYAMA研究フォーラムが、本県で開催されました。

フォーラムでは、自然環境の保全・再生・活用等について、日本とドイツの研究者による研究成果が発表され、議論がされました。

フォーラム開催前には、エクスカージョンがおこなわれ、日独の研究者が、三方五湖における自然再生取組の現場を訪れ、三方五湖での取組に理解を深めました。



エクスカージョンの様子

- プログラム
- ・「自然環境保全再生分科会の活動と里地・里山の生物多様性・生態系サービス：生態系インフラストラクチャーに焦点をあてて」
鷲谷 いつみ（東京大学、日本学術会議二部会員）
- ・「ヨーロッパの生態系インフラストラクチャー」
一ノ瀬友博（慶應義塾大学、日本学術会議連携会員）
- ・「ドイツのSATOYAMAの生物多様性・生態系サービス研究」
シュテファン・ホーテス（マールブルク大学）
- ・「三方五湖の生物多様性・生態系サービスと自然再生」
吉田丈人（東京大学、日本学術会議連携会員）
- ・意見交換会 コーディネーター：鷲谷いつみ



フォーラムの様子

田んぼでフナを増やす取組

4月中旬～6月上旬のフナ・コイの産卵シーズンに、三方湖・はず川河口・三方湖に流入する水路を中心に、シュロを用いたフナ・コイの採卵作業がおこなわれました。

採卵作業は、漁業協同組合と福井県立大学の研究者が協働で実施しており、福井県立大学により産卵場所や採卵手法についての研究が進められています。

卵のついたシュロは、三方湖周辺の田んぼ等に設置され、田んぼでの稚魚育成や稚魚の生息環境調査等がおこなわれました。



田んぼに入れた卵のついたシュロ



稚魚育成田の生息環境調査
福井県立大学 富永教授、井下氏による

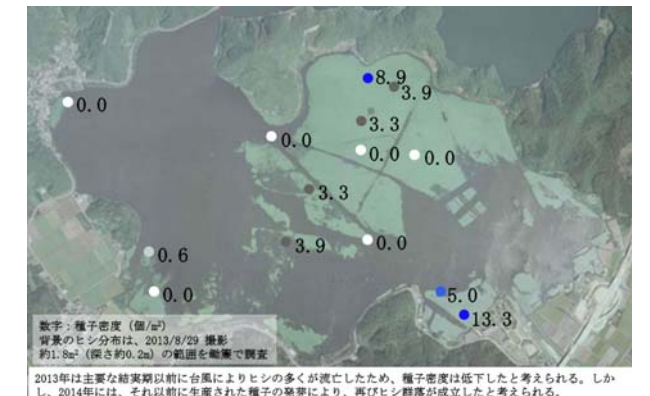
濁水防止の取組

田植え前の代掻きによって発生する濁水の河川・湖への流入防止を呼びかけるチラシが、きらやま地域づくり協議会・三方公民館・三方五湖自然再生協議会によって作成され、きらやま地域（三方小学校校区の地域づくり団体）全戸に配布されました。

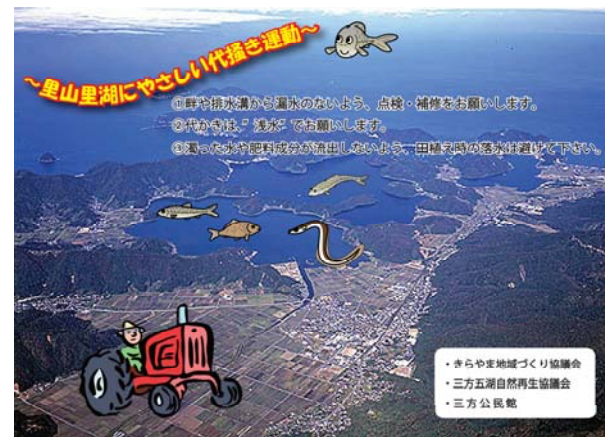
三方湖におけるヒシの調査

4月5日に三方湖において、東京大学と東邦大学の研究者により、ヒシ帯の水質や生物群集に関する調査、湖底に分布するヒシの種子密度調査がおこなわれました。

今回の調査結果を基に、持続的で適正なヒシ管理方法の検討等が進められる予定です。



ヒシの埋土種子調査
東京大学 吉田准教授、東邦大学 西廣准教授による



配布された濁水防止を呼びかけるチラシ

久々子湖におけるシジミの研究

久々子湖では、シジミの分布及び栄養状態等の把握、生息環境の維持手法の解明などの研究が、福井県立大学や東京大学の研究者により、進められています。

平成25年の調査からは、①水深が1mより浅い場所にシジミが多く生息している、②稚貝は水深50cmの場所に多く生息している、との結果が得られています。この調査結果をもとに久々子湖では、より効果的なシジミの生息しやすい水辺の環境づくり（浅場造成など）が、地域ぐるみで進められています。



上：カゴ飼育によるシジミの成長調査

左：稚貝の着底実験

福井県立大学 青海教授・木越氏による

三方湖のヒシ刈り取り

7月中旬～8月にかけて、NPO法人 世界に誇るラムサール湿地三方五湖を育む会が、ヒシ対策検証のための試験的な刈り取りを実施しました。

ヒシの刈り取りは、三方湖の東側において、専用の機械を用い実施されました。刈り取ったヒシは、堆肥化などの利用方法について研究が進められています。



ヒシ刈り専用の機械による刈り取りの様子



今年度のヒシ刈り取り範囲